

週日の説教

金 大烈 神父 2010年6月17日(木)

《幸せになれる人》

主の祈りについては、すでに勉強会で深い話を申し上げましたので、今日は省略させていただきます。ただ、主の祈りを唱える時にはいつも、「私が先に誰かを赦さなければ、私にも神さまから赦しをいただく資格が与えられない」ことを意識しましょう。

さあ、地下鉄にある50代の片足が不自由な男の人が乗りました。その人は、誰が見ても片方の足が短く見えました。地下鉄は混んではいませんでしたが、それなりにたくさんの人が、座ったり立ったりしていました。その片足が不自由な男の人は、電車に乗るとカバンを開け、耳かきを取り出し、それを売ろうとしました。彼が不自由で気の毒に見えたためか、人々は、財布を取り出そうとしました。しかし誰も最初に「耳かきをください。」とお願いせずにいました。その時、ある女性が、「それは、いくらですか？」と聞きました。彼は「これは100円です。」と答えました。するとその女性は「では、それをください。物はいらないので、お金だけ払います。」と言いながら、見下げるような感じで1000円札を渡しました。そうすると男の人は、戸惑うような顔になって、「すみませんが、物を受け取ってくださらないのならばお金もいただけません。」と言い、お金を返しました。そして、電車の中の人々にこのように話しました。

「皆さん、私は若い頃、片足を失って長い間絶望の日々を送りました。本当に無駄な時間を送ったと思います。でも何年か前に悟りがあり、私でも感謝できることが分かりました。ですから私は、障害を持っている人々と一緒に、小さなものではありませんが、この耳かきを一生懸命に作り、これを売るために、皆様の前に立っています。皆様は、丈夫で健康な体を持っているのですから、是非感謝をしながら生きてください。」その話を聞いた周りの人々が感動し、耳かきは全部売り切れしました。

この話は、その場にいた人が書いたエッセイですが、それを読んだことを思い出しました。

さあ、皆様、どういう人を『不幸な人』と言うのでしょうか。どういう人を『幸せな人』と言うのでしょうか。もちろん、絶対的な貧困や苦痛に陥っている人は不幸な人と言えるかもしれません。しかし大体私達は、相対的な生き方をしています。その中で、本当に不幸な人と本当に幸せな人を分ける基準は何でしょうか。覚えておいてください。自分で不幸だと思う人は、不幸な人です。自分で幸せだと思う人は幸せな人です。何を手に握っていても、「自分は不幸だ」と思えばその人は最後まで不幸です。そして不幸だと思ってしまうとその人には絶対に希望が見えません。幸せに近づくことができません。全ての人間はみんな難しさの中にいます。しかしその中で、「感謝することができるのか」、「愛することができるのか」、「希望を持つことができるのか」によって、その人が幸せか、不幸かが決まるのではないのでしょうか。

皆様、いろいろな人々がいます。最近、ワールドカップがあるために、いろいろな国の人々が南ア

フリカに集まっていますよね。応援をしている人々の姿を見ると、皮膚の色から始め、本当に様々な顔をしています。アフリカというのは、貧しい国です。食べるものにも困る人がたくさんいます。いろいろな病気にいつも悩んでいます。しかし、アフリカの人たちが自分たちの国の選手を応援する時、そこには他の国人々と比べて富貧の差は感じられません。自分たちのすることに集中し、幸せを感じ、楽しめる心が見られます。しかし、いろいろな条件がある中で、彼らにいつも笑みが浮かんでいるわけではないでしょう。

皆様、結局心の問題だと思います。「幸せになってください。」というのは、「幸せになれることを考えられる人になってください。」という意味です。幸せを求める人に幸せが来ます。

今日の福音も全く同じことだと思います。今日、主の祈りを教えてくださったイエス様のみ心は、ただ聞き流してしまう内容になるかもしれません。しかし、これがどのくらい深い意味を持っている祈りであるか、前の勉強の時間によくわかったと思います。皆様、よく考えてみましょう。皆様は幸せです。本当に幸せです。その幸せに感謝しましょう。

ありがとうございました。